| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド学概論 | 2 | 教授 | 吉水清孝 | 3 | 水 | 3 |

◆ 講義題目　ヴェーダから叙事詩へ

◆ 到達目標　ヴェーダ時代から西暦紀元前後までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、古代聖典ヴェーダの宗教と仏教などの出家宗教との対比を軸にして理解すること

◆ 授業内容・目的・方法

ヴェーダ、仏教、スムリティ（叙事詩・法典）の3分野を中心に、古代インドの世界観と人生観の変遷を以下の順序で解説する。01 序；02 インダス文明とアーリア人侵入；03 ヴェーダ文献と神話；04 ヴェーダ祭式；05 祭式をめぐる思弁；06 ウパニシャッド（五火二道説まで）；07 因果応報をめぐる諸思想（ジャイナ教含む）；08 ブッダの伝記と戒律；09 仏教教団と古代王朝；10 アビダルマと大乗仏教；11 二大叙事詩；12 叙事詩の思想；13 初期仏教のバラモン批判；14-15 インドの法典

◇ 成績評価の方法　（○）リポート［70%］・（○）出席［30%］

◇ 教科書・参考書　既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと、参考書は授業中に指示する。

その他：

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド学概論 | 2 | 教授 | 吉水清孝 | 4 | 水 | 3 |

◆ 講義題目　インド哲学とヒンドゥー教

◆ 到達目標　西暦紀元後からイスラーム教徒による北インド支配までの、一千年を超えるインド思想史のあらましを、バラモン教学・仏教哲学・ヒンドゥー教の三つを軸にして理解すること。

◆ 授業内容・目的・方法

初期中世インドに成立した各学派における存在と認識、および倫理と宗教の面での中心思想を、学派相互の影響関係と共に以下の順序で解説する。01 古代思想の要約、02 時代背景の変遷：古代から中世へ、03 バラモン教学（1）：二元論（サーンクヤ）と瞑想（ヨーガ）、04 バラモン教学（2）：語の意味と文の認識（文法学・ミーマーンサー）、05 バラモン教学（3）：聖典論と社会意識（ミーマーンサー・法典註釈）、06 バラモン教学（4）：ウパニシャッド解釈学と一元論（ヴェーダーンタ）、07 仏教の僧院と国際交流、08 仏教知識論（1）：認識論と論理学の基礎、09 仏教知識論（2）：論理学の応用、10 仏教思想とバラモン教学との対立；11 ヒンドゥー教（1）：ヴィシュヌ神とその化身、12 ヒンドゥー教（2）：シヴァ神と女神たち、13 ヒンドゥー教（3）：ヴィシュヌ教の神学、14-15 ヒンドゥー教（4）：シヴァ教の神学。

◇ 成績評価の方法　（○）リポート［70%］・（○）出席［30%］

◇ 教科書・参考書　既存のインド哲学史とは進め方をやや異にするので、教科書は用いない。講義内容の要旨を毎回配布するので、出席を欠かさないこと、参考書は授業中に指示する。

その他：

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド仏教史概論 | 2 | 教授 | 桜井宗信 | 3 | 水 | 1 |

◆ 講義題目　インド仏教史概説（1）
◆ 到達目標　釈尊の思想を中心とした初期仏教に関する基礎知識を習得する。
◆ 授業内容・目的・方法

釈尊（紀元前５世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、釈尊自身の思想とその展開の一端をいわゆる「部派仏教」の段階まで把握することを目指す。

講義の主なトピックは次のようである。

１：釈尊の生涯と主な事蹟
２：釈尊の思想
３：初期仏教教団の成立と展開
４：アショーカ王と「法」
５：「説一切有部」を中心とした部派の思想

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　％］・（○）リポート［100％］・（　）出席［　％］
（　）その他［　％］
◇ 教科書・参考書　教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。

その他：

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド仏教史概論 | 2 | 教授 | 桜井宗信 | 4 | 水 | 1 |

◆ 講義題目　インド仏教史概説（2）
◆ 到達目標　インドにおける大乗仏教の史的展開と思想に関する基礎知識を習得する。
◆ 授業内容・目的・方法

インド大乗仏教史の概略を理解し、『般若経』等の初期大乗経典について学んだのち、中観派・瑜伽行唯識派という大乗仏教思想を代表する二大学派の内容を、両派間で行われた論争や影響関係に留意しながら把握することを目指す。

講義の主なトピックは次のようである。

１：大乗仏教の出現と初期大乗経典の成立
２：ナーガールジュナと初期中観思想
３：中期中観派の思想
４：瑜伽行唯識派の思想

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　％］・（○）リポート［100％］・（　）出席［　％］
（　）その他［　％］
◇ 教科書・参考書　教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。

その他：「インド仏教史概説―その１―の既習者であること」を履修要件とする。

| 授　業　科　目 | 単　位 | 担　当　教　員 | | 開　講<br>セメスター | 曜　日 | 講　時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| パ　ー　リ　語 | 2 | 非常勤<br>講師 | 西　村　直　子 | 3 | 月 | 5 |

◆　講義題目　　パーリ語入門
◆　到達目標　　サンスクリットの知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。
◆　授業内容・目的・方法

サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基本事項を学ぶ。

Geiger, A Pali Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pali Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。

毎回出席者全員が翻訳し、文法事項等を確認する。授業の準備は語彙・語形等のチェック、翻訳が中心となるが、十分に準備できなくとも必ず出席して復習すること。

◇　成績評価の方法　　授業時間中に示される能力と取り組み方とによる。
◇　教科書・参考書　　Geiger − Norman, A Pali Grammar（共同購入する）、D. Anderson, A Pali Reader（大学に必要部数が揃っているが、自分で持っていても後まで役立つ）。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する

その他：

| 授　業　科　目 | 単　位 | 担　当　教　員 | | 開　講<br>セメスター | 曜　日 | 講　時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| パ　ー　リ　語 | 2 | 非常勤<br>講師 | 西　村　直　子 | 4 | 月 | 5 |

◆　講義題目　　パーリ語講読
◆　到達目標　　前期に習得した能力を基に、比較的明晰な原典を選び購読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練をする。
◆　授業内容・目的・方法

文法事項、シンタクス、仏教用語などについて、繰り返し復習確認しながら、Anderson の Reader から抜粋して読む。ジャータカ、ダンマパダ、ミリンダパンハーなど、言語と内容の両面を大切にして取り組む。

◇　成績評価の方法　　授業時間中に示される能力と取り組み方とによる。
◇　教科書・参考書　　前期の授業に準ずる。先端的な研究文献にも触れる。

その他：

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| チベット語 | 2 | 教授 | 桜井宗信 | 3 | 火 | 4 |

◆ 講義題目　古典チベット語初級文法Ⅰ
◆ 到達目標　(1) チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。
(2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。
◆ 授業内容・目的・方法
チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで、解釈力の養成を計る。

◇ 成績評価の方法　(　) 筆記試験［　%］・(　) リポート［　%］・(○) 出席［70%］
(○) その他（授業中に示される理解度）［30%］
◇ 教科書・参考書　藤田光寛：『古典チベット語文法』（非売品；インド学研究室に備え付けがある）

その他：教科書は研究室備え付けのものを各自コピーし、講義に臨むこと。また、サンスクリット語初級文法の既習者であることが望ましい。

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| チベット語 | 2 | 教授 | 桜井宗信 | 4 | 火 | 4 |

◆ 講義題目　古典チベット語初級文法Ⅱ
◆ 到達目標　古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。
◆ 授業内容・目的・方法
チベット人学僧 Tāranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。
「歯応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた充分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。

◇ 成績評価の方法　(　) 筆記試験［　%］・(　) リポート［　%］・(○) 出席［70%］
(○) その他（授業中に示される理解度）［30%］
◇ 教科書・参考書　Tāranātha:『インド仏教史』（コピーを配布する）

その他：「古典チベット語初級文法Ⅰの既習者であること」を履修要件とする。

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド学基礎演習 | 2 | 教授 | 吉水清孝 | 3 | 水 | 5 |

◆ 講義題目　ヒンドゥー教文献入門

◆ 到達目標　サンスクリット語によるヒンドゥー教の基本文献を読むことにより、初等文法で学んだサンスクリット語の活用と構文に習熟すると共に、デーヴァナーガリー文字と宗教文献の語彙を習得し、さらにヒンドゥー教の基本的思考法を理解する。

◆ 授業内容・目的・方法

Bhagavadgītā（『神の歌』）は、ヴィシュヌ神の化身であるクリシュナと人間アルジュナとの対話篇であり、現代においてもヒンドゥー教徒の代表的な聖典である。今学期はその第16章から第18章までを講読をする。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。第１回：Bhagavadgītā の成立；第２回：XVI, vv. 1-3 神的資質；第３回：XVI, vv. 4-15 阿修羅的資質；第４回：XVI, vv. 16-24 阿修羅的輪廻からの脱却；第５回：XVII, vv. 1-9 信仰と決意；第６回：XVII, vv. 10-19 祭式と苦行；第７回：XVII, vv. 20-28 信仰と宗教的行為；第８回：XVIII, vv. 1-5 結果の放擲；第９回：XVIII, vv. 6-12 義務の遂行；第10回：XVIII, vv. 13-19 行為の五要因；第11回：XVIII, vv. 20-35 知性の３種；第12回：XVIII, vv. 36-44 階級ごとの行為；第13回：XVIII, vv. 45-53 自己の義務の遂行；第14回：XVIII, vv. 54-71 信愛と恩寵；第15回：XVIII, vv. 72-78 Bhagavadgītā 全体のまとめ。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［30%］（○）その他（授業での貢献度）［70%］

◇ 教科書・参考書　原典と英訳は、コピーで配布する。上村勝彦（訳）『バガヴァッド・ギーター』（岩波文庫）を各自で用意すること。

その他：

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド学各論 | 2 | 教授 | 吉水清孝 | 5 | 火 | 2 |

◆ 講義題目　ヒンドゥー教文献講読（1）

◆ 到達目標　ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。

◆ 授業内容・目的・方法

『マハーバーラタ』は、王家の争いに端を発する大戦争を描き、そのなかに社会倫理と宗教の全体にわたる教説を盛り込んだ世界最大の大叙事詩である。今学期は、昨年度に引き続き、第10巻「夜襲の巻」序盤を講読する。ここでは、父を殺された復讐を夜襲により果たそうとするアシュヴァッターマンと、運命と人為との関係を説いてそれを止めさせようとする伯父クリパとが、人の生き方をめぐる問答を展開している。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［30%］（○）その他（授業での貢献度）［70%］

◇ 教科書・参考書　原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。（Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch；Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等）

その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド学各論 | 2 | 教授 | 吉水清孝 | 6 | 火 | 2 |

◆ 講義題目　ヒンドゥー教文献講読（2）

◆ 到達目標　ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。

◆ 授業内容・目的・方法

前学期に引き続き、『マハーバーラタ』第10巻「夜襲の巻」中盤を講読する。ここでは、パーンダヴァ軍陣地に忍び込もうとするアシュヴァッターマンの前に、怪物化した異形のシヴァ神が立ちはだかる。初期シヴァ教を理解する上での重要文献を講読することになる。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［30%］（○）その他（授業での貢献度）［70%］

◇ 教科書・参考書　原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionaryをもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。

その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド仏教史各論 | 2 | 教授 | 桜井宗信 | 5 | 水 | 2 |

◆ 講義題目　チベット密教文献研究（1）

◆ 到達目標　インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

◆ 授業内容・目的・方法

チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』（rGyud sde spyiḥi rnam gshag）の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［70%］
（○）その他（授業中に示される理解度）［30%］

◇ 教科書・参考書　rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa,『Sa skya 派全書』Vol. 2（東洋文庫刊），pp. 1-37

その他：「古典チベット語文法の既習者であること」を履修要件とする。

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド仏教史各論 | 2 | 教授 | 桜井宗信 | 6 | 水 | 2 |

◆ 講義題目　チベット密教文献研究（2）

◆ 到達目標　インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

◆ 授業内容・目的・方法

前セメスターに引き続き bSod nams rtse mo の『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。

◇ 成績評価の方法　（ ）筆記試験［ %］・（ ）リポート［ %］・（○）出席［70%］
（○）その他（授業中に示される理解度）［30%］

◇ 教科書・参考書　rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa,『Sa skya 派全書』Vol. 2（東洋文庫刊），pp. 1-37

その他：「古典チベット語文法の既習者であること」を履修要件とする。

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド仏教史各論 | 2 | 非常勤講師 | 船山　徹 | 集中（6） | | |

◆ 講義題目　漢文資料から見た６・７世紀インド仏教事情

◆ 到達目標　インド仏教は6-7世紀に重要な転機と発展を迎えたが、インド語資料から知られる事柄は限られている。インド仏教史に関して、同時代あるいは直後の時代の漢語資料からはいかなる情報を得られるかを具体的に理解する。

◆ 授業内容・目的・方法

この授業では最初に用いる資諸料の紹介をして、その基本的性格を簡単に押さえた後に、以下の課題を扱う。
インドの地域区分
各地域の特徴
仏教の諸論師に関する伝説や逸話
寺院に関する記録
部派に関する記録
仏教以外の婆羅門教に関する記録

以上に関して、仏教史書（僧伝の類）、経典目録、注釈書に見られる重要な説と問題点、異なる解釈の可能性を原文に即して検討する。また漢語資料の特徴と資料的限界についても考慮し、漢語資料を用いた場合に、何がどこまで言えるか、どのような問題があるかを探る。

◇ 成績評価の方法　（ ）筆記試験［ %］・（○）リポート［ 100%］・（ ）出席［ %］
（ ）その他（授業中に示される理解度）［ %］

◇ 教科書・参考書　教科書は使用せず、教員が作成したプリントおよび原文コピーを配布。

その他：出席者はインド仏教史に対する興味のほか、漢語資料（漢文）を読むための基本的文法知識（訓読の基礎など）を有していること。訓読がある程度できればよい。現代中国語の知識はなくてもよい。

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド学演習 | 2 | 教授 | 吉水清孝 | 5 | 木 | 2 |

◆ 講義題目　インド哲学文献研究（1）

◆ 到達目標　サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。

◆ 授業内容・目的・方法

ヒンドゥー法典を代表する『マヌ法典』には数多くの註釈が書かれた。前年度に引き続き今学期は、遊行者の生活規範を定める第6章後半へのメーダーティティ（9世紀）による浩瀚な注釈を、バールチ（7世紀ごろ）による現存最古の註釈と共に講読する。ここでは遊行者の瞑想が説かれており、全体としては在家主義を説く『マヌ法典』が出家思想をどのように取り入れているかを伺うことができる。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［30%］（○）その他（授業での貢献度）［70%］

◇ 教科書・参考書　原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionaryをもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)

その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド学演習 | 2 | 教授 | 吉水清孝 | 6 | 木 | 2 |

◆ 講義題目　インド哲学文献研究（2）

◆ 到達目標　サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。

◆ 授業内容・目的・方法

前学期に続き、『マヌ法典』第6章後半への、メーダーティティ（9世紀）とバールチ（7世紀ごろ）による註釈を講読する。第6章最終部では、老境にあっても出家せずに家庭に留まって生涯を終える生き方が説かれており、『マヌ法典』の多くの章にみられる、出家に対する在家の優越という中心思想を確認することができる。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［30%］（○）その他（授業での貢献度）［70%］

◇ 教科書・参考書　原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まずM. Monier Williams, Sanskrit English Dictionaryをもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。

その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド仏教史演習 | 2 | 教授 | 桜井宗信 | 5 | 火 | 3 |

◆ 講義題目　梵蔵漢対照による『倶舎論』の講読（1）

◆ 到達目標　基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

◆ 授業内容・目的・方法

Vasubandhu（世親）の著した『倶舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乗仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢３書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［70%］
（○）その他（授業中に示される理解度）［30%］

◇ 教科書・参考書　用いる基本資料は次の通り：
・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y. Ejima, 山喜房仏書林。
・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
・漢訳：『阿毘達磨倶舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨倶舎釈論』（真諦訳）。
※『倶舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

| 授業科目 | 単位 | 担当教員 | | 開講セメスター | 曜日 | 講時 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| インド仏教史演習 | 2 | 教授 | 桜井宗信 | 6 | 火 | 3 |

◆ 講義題目　梵蔵漢対照による『倶舎論』の講読（2）

◆ 到達目標　基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

◆ 授業内容・目的・方法

Vasubandhu（世親）の著した『倶舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乗仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢３書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

◇ 成績評価の方法　（　）筆記試験［　%］・（　）リポート［　%］・（○）出席［70%］
（○）その他（授業中に示される理解度）［30%］

◇ 教科書・参考書　用いる基本資料は次の通り：
・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y. Ejima, 山喜房仏書林。
・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
・漢訳：『阿毘達磨倶舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨倶舎釈論』（真諦訳）。
※『倶舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。